

積乱雲には要注意

天気予報の解説で、「大気の状態が不安定」という言葉を聞いたことがあるかと思いますが。上空に冷たい空気があり、暖かく湿った空気が地上付近にある状態を「大気の状態が不安定」といいます。

暖かい空気は軽いので上昇し、上空で冷やされて雲を発生させます。上空に通常より冷たい空気があるとさらに上昇を続け、発達した積乱雲となります。夏は10キロメートルを超える高さまで発達します。上空10キロメートル付近の気温は、夏でもマイナス30℃以下になるため、雲の中では雨ではなく、氷やあられの粒となり、これらがぶつかり合って静電気が起きたりします。雲の中に静電気が溜まって、溜めきれなくなると雲の中や地上に向かって電気を放出することで雷が発生します。

発達した積乱雲は、短時間に激しい雨を降らせることがあります。低い土地が浸水したり道路が冠水したりするほか、用水路や小さな川の水かさが急に増えたりすることがあります。また、ときには、雲の中の氷が融けずに大きく成長して「ひょう」となって降ってくることや竜巻などの激しい突風をもたらすことがあります。雷の音が聞こえたり、空が急に暗くなったりしたときは、積乱雲が近くにあるということですので、雨が降っていなくても川から離れること、安全な建物の中などへ避難することが重要です。

気象庁では、雨雲や雷、竜巻の状況を1時間先まで予測した分布図（降水、雷、竜巻発生確度ナウキャスト）を公表しています。これは5分または10分毎に最新の情報に更新されますので、屋外で行動する場合などにお役立て下さい。

問い合わせ先 網走地方気象台
(電話：0152-43-4349)

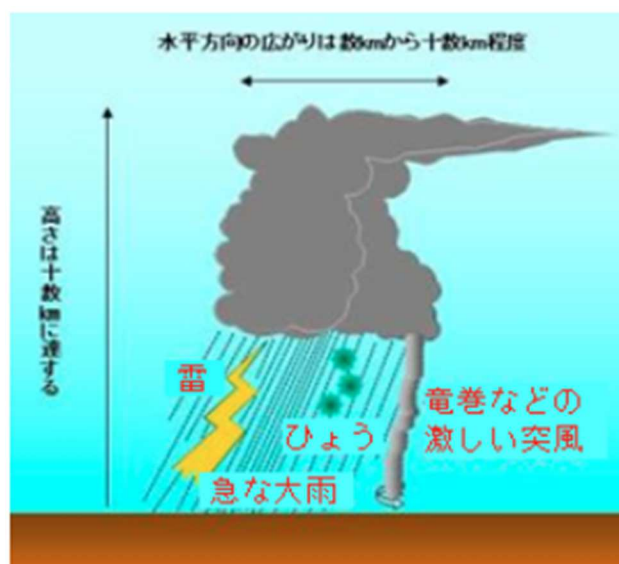


網走地方気象台ホームページ



気象庁ホームページ

「雷ナウキャスト」はこちらから



積乱雲の構造（気象庁ホームページより）